

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2025/12/17

SAH×進路 ☆自己理解力・自制心・粘り強さ…☆

受験勉強・受験本番は学力と非認知能力の勝負！part2

前号に引き続き、受験特集。今号は、1.2年生の1月模試に向けた考え方・対策も伝えます。前号でも言いましたが、受験で勝つためには「学力」はもちろん非認知能力が必要になります。高校入試とは比べものにならない範囲と知識を、試験本番までにいかに効率的に合格点を持って行く工夫・プランニング力。普段の授業や課題をどう自分の「実」にしていくか。自身の長所・短所、得意・不得意を知り、受験を有利に進めるマネジメント力。(編集 岡田明・教頭)

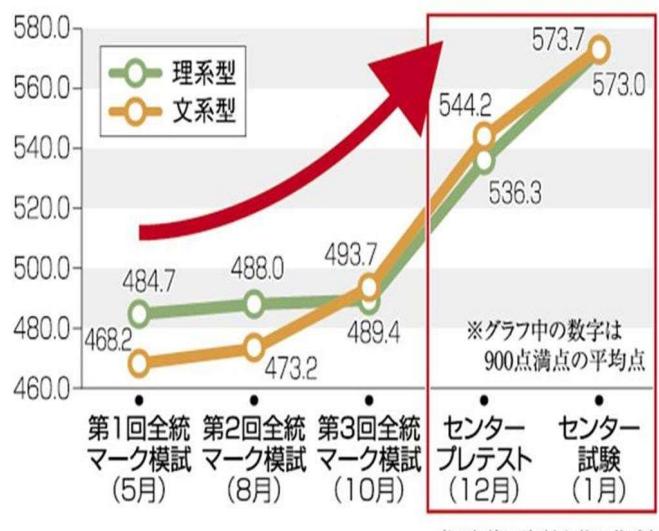
3年生これから学習計画・意識の持ち方

調整が積み重ねか→共テまで後31日=「1ヶ月」。国公立2次まで後70日=「2ヶ月以上」

少し古い新聞記事より。「現役生は最後伸びる？」という記事。右図は河合塾提供の模試推移のグラフ。プレテストからセンター試験(現共通テスト)に向けて、成績が約30点上がっています。「え？30点も？」、「え？30点しか上がらないの？」。これは「平均」です。上がらない人もいれば、爆上げする人もいます。では、どういう人が上がる(爆上げする)のか。**上がる(爆上げする)考え方、方法を伝授しよう。**

1点目。早稲田のような日程の遅い私大個別入試、そして国公立2次試験[前期]の2/25まで、まだ2ヶ月以上ある。つまり、どれだけ知識を積み重ねられる時間と余地があるのか、ということだ。この時期、演習が始まっている教科もあるだろう。

2018年度 高校3年生の1年間の成績推移



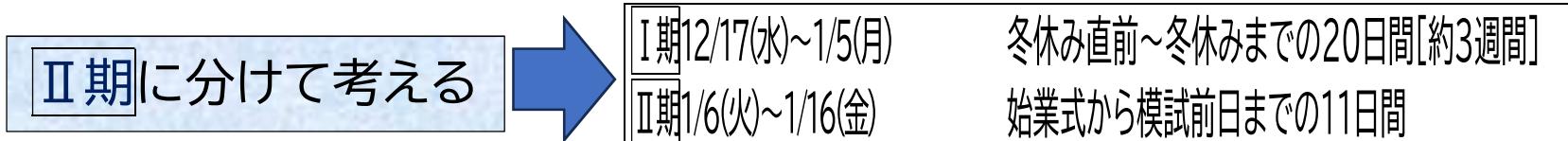
以前にも伝えましたが、3年生全員もう一度確認。最後伸びない生徒は演習や過去問の得点ばかりを気にしている人。もう「調整」に入っているのですか？「何点取れたか」ばかり気になっているだけだとこれ以上得点は上がりませんよ。**今演習をやっている目的は、「傾向に合わせて行く訓練」と「知識のヌケ・モレチェック」「解く順番・大問ごとの時間で解く確認」**です。後者の「知識のヌケ・モレチェック」、これを強く意識し、できなかったところ、弱い分野を“得点できるレベルまで”徹底的に入力する。なんなく復習ではダメ、ということ。次出たら絶対に仕留める！そういう意識で覚えるのです。「共通テストの予想問題集で演習を何回もやっていけば自然と伸びるだろう」と考えている人は、危険。演習後の対応が爆上げの鍵を握ると心得よ。

2点目。ここへ来て、一生懸命がむしゃらにやっている生徒がほとんどだろう。その**がむしゃらを「どの科目でどのくらい得点を取る上げる）、どのくらい知識を積み重ねる」ということに意識を向けて**もらえないか？合格するためには、誰もが出来ているところをあなたが出来てなければ勝負に負けるのだから、即克服しなければならない。知識を積み重ねるために、壁を突き破るために、とにかく工夫すること。工夫することにも頭を回すこと。“がむしゃらに”、そして冷静に、どの科目のどの分野を積み重ねるかの“工夫する”のです。

3点目。一日一日、勉強に集中できるように心身を持っていく工夫をすること。**本番、力が發揮できるように自分を持つていくこと。**寒くなってきたこの時期、**気力、体力が超大事**。それでは最後に、以下のことをもう一度確認し、自分に言いきかせよう！**共テまで1ヶ月、2次まで2ヶ月以上。まだまだ知識は積み重ねられる。積み重ねたら勝てる**



I,2年生 ターゲットの1月模試まで31日～学習のプランニング～



- I期は長期休業。授業（の進み）が止まる。一日ガツツリ勉強できる。時間を取りれば、その分多くの知識（英語で言えば、英単語、文法など）が入る。「学習時間、学習意識の容量（キャパシティ）を広げる」ことも目標に。
- II期は学校が始まる。放課後3時間を目安。頑張ってみよう。

◎各科目ごとにそれぞれどういうレベルでやるか

- 基本的知識が入っていない教科…「入力」重視=復習
- 基礎はできている→模試（ゆくゆくは受験本番の入試）で得点をとりたい教科…「出力」重視→演習、問題をどんどんやろう

◎英検を受ける生徒は「英検」優先。英検受けない人は「英語」優先。だけど、それだけで終わっては絶対ダメ。

- 英検の勉強を、受験で通用する英語力にもつながるよう意識。“一石二鳥”、英検の勉強を使って、単語・文法の入力
- 「英語+α」を必ず実行する=「今日は英語しかやらなかった」をなくす
 - ・基本は、国語・数学の「今やるべきこと」をやる。
 - ・国語は明白。1,2年とも古文の文法（特に助動詞・敬語）、漢文の句法（参考書『漢文ヤマのヤマ』『速覚え即答法』を一冊やり終える）。分かっていると思うが、“理系”こそしっかり仕上げる。国語が安定、得点源になる勉強法だ。
 - ・数学は、冬休みを使って、既習範囲で“ぬけている”分野を徹底的につぶしていく。毎日やるのが効果的。
 - ・2年理系は、専門理科も必ず授業レベルでいいので復習する。
 - ・国語の古典の文法・句法が固まって（理解できて）いる人は、現代文の評論対策として『船口の最強の現代文』（学研）を一冊やろう（藤生先生オススメ）。現代文は日本語だからなんとなく…と思っている人、“目から鱗”ですよ。

「今から受験生になる」ためのアプローチ方法

志望校の赤本を買おう！

保護者の方にお願いをして（保護者の皆様よろしくお願ひします）、買ってもらう。赤本は“季節もの”なので、冬（受験時期）を過ぎると書店から無くなってしまう（今はネットで買えるけどね）。だから、この時期に必ず購入する。購入したら、自分が勉強するスペースで自分の視界に入るところに赤本を置こう。モチベーションが上がる。そして、飾るだけではモッタイナイ。中には、過去問だけではなく、入試科目や卒業生の声、傾向分析、大学の授業や学生生活の情報などが掲載されている。しっかり読み込もう。

国公立2次試験、私大個別入試は、傾向やレベルを知ることから

共通テストと違い、国公立2次試験や私大個別入試は大学ごとに問題が作られているのが特徴だ。よって、入試問題はその大学独自の傾向が出る。一口に「受験学力は2次力・記述力をつけろ」と言います。当然その通りですが、それに加えて志望大学の問題の傾向やクセを知りそれに合わせていく必要があります。例えば、世界史を例に。一橋大学の世界史は「400字論述3問、普通に教科書を覚えて対応できないくらい深い問題が出る」けれど、傾向を知れば「第1問は中世ヨーロッパ、第2問は近代欧米、第3問は近現代のアジアか国際関係」と決まっており対策は十分可能。筑波大学世界史は「400字4問」、傾向は「全範囲から出ている」。早稲田大学は、文学部では「記述がメイン」、法学部では「論述問題あり」、つまり学部によって傾向が違う。立教大学や立命館大学は「入試委員会で作られているからどの日程も傾向が似てくる。世界史は年代が問われる。」このように、この2年生の時期に志望校の問題の傾向やクセを知っておくことによって、自分の学力をどこまでどの方向に持っていくべきかを把握できます。



「受験生にならなきゃ」の気持ちはある！だけど…の人へ

◇勉強の習慣を身につける①…「勉強する」ことに慣れましょう

受験勉強は毎日真剣に何時間も勉強しないといけなくなる。このギャップって、思った以上にきついもの。だから今の時期から勉強する習慣をつけることで、受験勉強を本格的に始める時にも戸惑いがなくなってくれ、スムーズに勉強できるようになる。

◇勉強の習慣を身につける②…「勉強時間」を確保することをまずは意識して

「高2から勉強の癖をつけることが鍵となってきます。毎日30分でいいから机に座る習慣をつければ合格に近づきます。」（『ドラゴン桜』）
「実際の勉強時間は、基本は3時間から始めましょう。受験生（高3）の夏休みの勉強時間は平均1日10～12時間。まずは3時間から始めて、春休みには8～10時間自分で勉強できる体力をつけるのが理想的ですね。」（受験マガジン『合格への道』高2生の勉強スケジュール）

◇勉強の習慣を身につける③…「先んずれば勝負を制す」が受験の常道

時間にしても勉強量にしても、先に始めた人の方が多くこなせるのは当然。大学受験に関しては、この「先に始める」という点が大きな差になる。現在自分より成績のいい人でも、1年前は自分とさほど変わらない成績だった…ということはよくあります。逆に言えば、今は同じくらいの成績だったとしても、1年あればいくらでも差をつけることができるということです。「まだ1,2年だし大丈夫」と油断せず、受験を意識して勉強してみましょう。不合格の人に話を聞くと、ほとんどが「間に合わなかつた」「仕上がらなかつた」「後3ヶ月あれば…」だ。つまり、始めるのが遅かったのが落ちる要因の一つということだ。大学受験は、自分との闘い、頑張れば、早く仕掛ければ、報われる確率は上がる。今から、階段を一段一段上がるよう、学力を積み重ねていこう。

